

# DIFAR 通信

発行 NPO 法人 DIFAR 事務局 発行日 2014 年 8 月 20 日 VOL. 18



## バジェグランデ事務所前に現地スタッフが全員集合！

上左から、教員課程ボランティアドリ、市役所スタッフマリ、教員課程ボランティアロサリオ、市役所廃棄物課ガブリエル、市役所廃棄物課アルティ、ゴミ回収員ルイス。

下左から 教員課程ボランティアネルバ、DIFAR スタッフサバ、回収員アブエロ。

この他に JICA インターンの岩谷良恵と代表の瀧本里子が現地で活動しています。

### 今号のもくじ

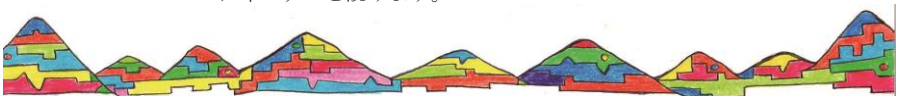
#### 4&5 環境絵画コンクール

- |                     |                          |
|---------------------|--------------------------|
| 1 バジェグランデのリサイクルスタッフ | 6 日本で暮らすボリビア人／ボランティア募集   |
| 2 里子のボリビア便り         | 7 フォトコンテスト／リーフレットご活用ください |
| 3 バジェグランデレポート No4   | 8 第2回 森の音楽祭／寄付・入会案内      |



DIFAR とは、ボリビアで使われているスペイン語 Desarrollo Integrar de la Familia Rural 「農村生活の総合的な発展」の頭文字です。

ディファルと読みます。



## 里子のポリビア便り

### バジェグランデ・リサイクルプロジェクト1年おめでとう！

昨年の7月2日にバジェグランデ市役所と JICA と署名を持って始まった5年間プロジェクトの1年目を迎えました。しかし、正直言って私は、この日を忘れていました。思い出させてくれたのは、なんとバジェグランデのラジオ局でした。

「一年が経ったので取材させて」と向こうから声がかかりました。ちょうど、スタッフとの夕食会を企画していました。「一年目のパーティにしちゃお！」ということで、サンタクルスから来ていた友人に日本料理を作ってもらっちゃいました。

ラパスからの NGO インティイリマニの方々や市長も同席して華やかなパーティになりました。このプロジェクトに関わっていただいている、日本、ポリビアの、沢山の人たちに感謝です。

### リサイクルセンター進捗状況

基礎が終わり、柱が建ち、壁が始まっています。バジェグランデ道中は、乾季にも降った雨から途中建設材料運搬が滞るなど、どうなるか・・とも思いましたが現地はもう一か月以上も雨が降らず、おかげで建設は順調に進んでいます。建設会社の社長は、バジェグランデ出身で、新しい屠殺場の建設も請け負っていてとてもやり手な感じの方です。JICA のプロジェクトのため、通常ここではやらない検査や、DIFAR のコンサルタントの細かい監理体制にも快く応じてくれています。それどころか「本来なら、建設というのはここまでやるべきだね」と感心している風もあり、建設の方でも技術移転が行われているようです。



スタッフのサバと建設現場

### リサイクルショップについて

市場でリサイクルのキャンペーンと資金の捻出をかねて、リサイクルショップをやってみようと相談しています。先日名前が決まりました。ルンルン (RunRun) です。バジェグランデでは子供たちがミニカーで遊ぶ時によく使う言葉です。

市場内で問題にならないように、あくまでもプロジェクト啓発の一環であるという事を大きく表示をし、分別指導員にも活動の目的等をきちんと理解してもらいます。色々予測もしていない問題が出てくるでしょう。でも、プロジェクトは支出ばかりでなく生み出す感覚も大切です。スタッフたちはプロジェクト後にリサイクル会社を立ち上げたいとも思っているみたいなので、いい経験になると思います。

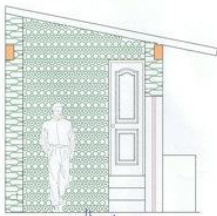
## バジェグランデ・レポート No.4 良恵さんのML活動レポートから

JICAのインターンとして バジェグランデで活動している岩谷良恵さんは、定期的に活動レポートをDIFARのメーリングリスト（ML）に書いてくれています。そのなかから最近のトピックスの抜粋を紹介します。この他にも色々な活動が詳しくレポートされています。MLはDIFARホームページから参加できます。

★ごみ分別回収を行っている市場の、大型ごみ箱設置場所で、床と壁にセラミックのタイルをはる作業が終わり、今後、衛生面からも、掃除をしやすくなる点からも、とても良くなりました！！

★バジェグランデ市内のすべての学校に、ごみ分別のためのゴミ箱を設置する準備を整えたそうで、今後毎日の清掃活動を促進する方向です。

★環境ガイドブックの再編集が進んでおり、分かりやすく見やすい形にと担当者のガブリエルさんが集中して取り組んで、きれいに仕上がってきています。



★建設中のリサイクルセンターに設置するエコトイレについて、各学校をまわり、子どもたちと一緒に建設できるよう、お願いをしています。設計図（左図）をみせてもらいましたが、一面ガラス瓶を用いた壁が、どんなふうになるか、とても楽しみです。

★事務所と同じ建物の2階トイレのタンクから水が漏れだし、約5時間にわたって事務所が水浸しになりました。スタッフの2人が夜中に呼び出されたそう、片付けに追われ。書類も水浸し、事務機器も故障して修理に出しました。

★水道公社へ訪問し、資源ごみを分別してもらい、それを回収させてもらう協力を依頼するための講習会を行いました。里子さんが地球レベルの視点で、ごみを減らす必要性を説明した際の水道公社の人たちのうなずきが、私には印象的でした。

★8月9日に写真コンテストに参加する高校生対象の講習会を開催しました。講師は市役所のコミュニケーション部の責任者ホスエさん。写真撮影の基礎編、みんな集中して聞いていました。参加者が広場で撮った写真をチェックして、撮影のコツを教えてもらいました。12日には、このコンテストのテレビ取材もありました。何度もフォトコンテストの説明をしているスタッフのマリーさんが取材に応じ、的確に募集要項などを話していました。



ホスエ氏のカメラを覗き込む生徒

## バジェグランデ 環境絵画コンクール入賞作品

浦田広美・デ・リマ

2月に実施された第一回環境絵画コンクールには38名の参加がありました。中心広場の隣にある文化会館前に机を並べての、青空コンクールで、町行く人も参加者を興味深そうに見つめていました。白い画用紙に少しずつ少しずつ描く子供、大胆に描く子供、友達どうしおしゃべりをしながら描く子供、黙々と制作する女性、参考を持って来た本を写し取る人、参加者それぞれがそれぞれのペースで環境にかんする絵画を制作しました。小学生部門、中高生部門、成人部門を設け、それぞれに違ったテーマがありました。絵に込めたメッセージを文章にして絵の裏に書いてから提出してもらいました。バジェグランデの市長さん、文化会館の館長、教育長、里子さん、そして私の5名で審査をし、「メッセージが伝わるか」「オリジナリティがあるか」「絵の質」について点数をつけ、合計点の大きい順に、それぞれの部門で上位3名が入賞し、3月のバジェグランデ創立祭で表彰されました。創立祭に合わせて、全ての作品が文化会館に展示されました。

### ★小学生の部 テーマ「私の大好きなバジェグランデの宝物」



①1位は Carlos Daniel Garvis Acuña 10歳。小学校5年生。のびのびと描いていた姿が印象的です。参加者の中で唯一、バジェグランデにあるダムについて描きました。「グアダルーペ村のダム。このダムは果物や人々が種をまいている土地に大きな恩恵をもたらしている。私たちの観光地や環境を守ろう！このダムは2001年にホルヘキログ技師とグアダルーペ村の受益

者によって建てられたものだ」

②2位は Leticia Garcia Astorga 10歳。小学校4年生。「バジェグランデの宝物は動物、木々、山々、そして植物です。」(写真右)

③3位は Eyda Vanesa Duran Barderama 11歳、小学校6年生。「まず、異なった色々はそれぞれ自然の要素を表しています。青は水を、茶色は大地を、緑は



木々を表しますが、新鮮な空気を何色で表せられるか決められていませんでしたから、違った緑で空気を表すことにしました。描いた風景は、一つの風景です。込めたメッセージは、もしこの美しい、いつも私たちにとって必要な自然を大切にしなかったら、例えば、もし水を汚してしまったら、もう二度と使えなくなってしまって、私たちは危険に犯されてしまいます」(写真左)



### ★中学・高校生の部 (中高一貫) テーマ「バジェグランデの環境問題」

①1位は Juan Daniel Dominguez Orellana 16歳、高校5年生。黙々と制作していました。絵を描くことが好き、という気持ちが伝わってきました。「私たちの



町のごみ箱は、使われずに空っぽのまま。その時ごみは通りの灌漑に残っているのに。ごみをすてるべき場所に捨てることを忘れないで！私たちの環境に捨てないで、ごみ箱にすてて！いつもそのことを思い出して」（写真左）

② 2位は Daniel Lazarte Velasco

11歳、中学1年生。「ぼくたちの本当の敵はぼ

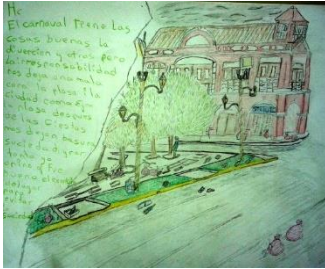
くたち自身だ。自分たちが大好きなバジェグランデの宝である環境を汚染している」（写真右）



③ 3位は Bladimir

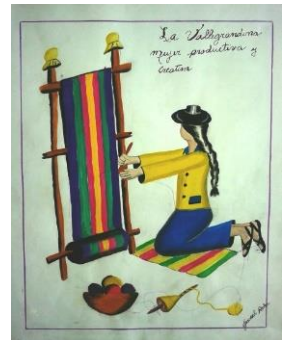
Veizaga Claros 18歳、

高校5年生。「カーニバルには楽しみなどといった良い面がある。しかし無責任が広場や街角に悪い顔を残す。例えば祭りの後の広場には汚いごみが山ほど残されている。だからぼくは汚いものをさけるために場所を変えてしまった方がいいと思います」（写真左）



★成人部門 テーマ「バジェグランデの伝統」

① 1位は Gesabel Rocha Florez さん。38歳の女性。DIFARの事務所のすぐ近くの学校で秘書として働いています。日頃から、織物やバジェグランデの名産品のトモロコシの皮で作る人形の制作をしているということで、絵画にも織物をしている女性を描かれました。今回のコンクール参加者の中で唯一、絵の具で色を塗っていました。終了時間間際までこつこつと描かれていたことが印象的です。「バジェグランデの女性は生産的で創造的」というメッセージが添えられています。（写真右）



② 2位は高校で美術の先生をしている Eduardo Cuellar Melgarejo さん。60歳の優しい男性の先生

です。バジェグランデ創立記念日のお祭りの際の写真を持参し、参考にしながら描かれていました。「伝統、民俗音楽、習慣。私たちの文化を守ることは、私たちの環境を保護することに通じる」というメッセージが添えられています。

（写真左）

③ 3位は Erwin Lino Vargas さん。27歳の青年です。

とても熱心に描いていましたが、すでに存在するポスターをコピーした部分が多いので、順位は最下位となりました。「これが私の町バジェグランデ。この大地、そして文化を愛することを学ばなければならない」（写真右）





## 日本で暮らすボリビア人②

**Ronald Justiniano (ロナルド・フスティニアノ) さん**

**33歳 サンタクルス出身 三重県津市在住**

11年前22歳の時に、出稼ぎで日本にやってきました。現在、妻と子供3人の5人家族でHONDA自動車に共働き中です。日本に来て、街中にごみが無く道がとてもきれいでびっくりしました。

日本は、社会保障も進んでいるし安全な国なのでとても好きです。でも救急車の対応には困りました。夜中に子どもが熱を出して119番に電話した時、言葉がうまく話せないのにいろいろと質問され、病院が見つかるまで長い時間がかかりました。

趣味は機械いじりです。時間があれば、コンピューターや携帯電話を分解しています。将来は、もう一度大学に戻って勉強したいです。テクノロジーが専門なので、もっと高度な技術と専門知識を身につけたいです。お金を稼いで帰国する予定でしたが、思うようにならず、子供が日本に馴染んでしまったので、将来を考え日本で暮らすことを決めました。  
(聞き手：山田ロサリオ)

\*\*\*\*\*

### イベントボランティア募集中！

愛知県設楽郡東栄町で毎年開催される**東栄フェスティバル**にDIFARは毎年参加しています。今年は11月3日に計画されています。人情味豊かでかつ国際交流の盛んな町で、山奥なのにたくさんの方がこの祭りに来られています。チェンソーアート大会や子供たちの奉納の踊りもあり、とても楽しいですよ。

また、**縁博三重県民大縁会**という催しが11月23日に伊勢であります。「美し国おこし・三重」の総仕上げのイベントで、県内の団体が一堂に会する賑やかなお祭りです。DIFARも参加予定です。

12月7日、アスト津で「**多文化理解イベント Hand in Hand ! みえの地球市民**」という催しもあります。

日本ボリビア人協会が毎年行っている**EXPO BOLIVIA**は、来年1月にアスト津で開催されます。

これらイベントのボランティアスタッフを募集しています。スタッフとして参加するとまた違った楽しみ方ができると思います。連絡をお待ちしています。(交通費上限3,000円支給)



展示と販売 Hand in handにて

## バジェグランデと京都をつなぐ！国際フォトコンテスト

この夏、岩谷良恵さんと、フォトコンテストを企画しました。タイトルは「国際写真コンテスト 2014～写真を通して国際交流～」。バジェグランデと京都の中高生に、自分の住む地域の魅力を撮影して送ってもらい、交流を深めることを目的にしています。



ちょうど夏休みにボリビアの友人を訪れることになったので、この機会を利用して昨日8月9日にバジェグランデを訪れてきました。バジェグランデ

は想像していた通りとても穏やかで、歴史を感じさせる美しい町でした。到着するとすぐに岩谷さんがオフィスに案内してくれ、市役所のスタッフであるマリさんも含めて三人で今回のフォトコンテストについて話をしました。講座を開いたりラジオで広報したり、学校を直接訪れたりしてコンテストの宣伝をしているということでした。昨日までに23人の参加表明があったそうで、どんな写真が集まるか今から楽しみです。ちなみに日本では私の教えている高校三年生の5クラスから40人程度が応募してくれました。

この他、友人の教員二名がそれぞれの学校で呼びかけをしてくれ、全部で80枚以上の写真が集まっています。

今回のコンテストは、最終的に9月末にそれぞれの国で写真の展覧会を行い、見に来てもらった人に投票で評価してもらって優秀賞を決めることにしています。

そして上位三名に日本からは賞金が、バジェグランデからは伝統的な織物が送られることになっています。

(井出教子)

\*\*\*\*\*

### DIFAR のリーフレット・2015年カレンダー ご活用ください



昨年からより計画していたリーフレットの印刷ができました。「森の音楽祭」をはじめいろいろところで DIFAR の活動を広報するために活用します。お知り合いの方に配ってくださる時はお送りしますので事務局までお知らせください。

来年のカレンダーの制作が新しいメンバーも加わって進んでいます。11月には完成予定です。



## 森の中で、音楽と料理を楽しみましょう

去年は8月に開催しましたが、あまりに暑かったので、今年は9月28日(日)に第2回森の音楽祭を実施します。場所は去年と同じ美杉の袖の森。音楽を通じて日本在住のポリビアの方々と心の交流ができればいいと考えて企画しています。

特に今年は日ポ外交関係樹立100年の節目の年です。言葉が通じなくても、コミュニケーションが取れたら、目が合えばにっこり笑えたら素敵ですね。サルサのステップの指導を受けて、みんなで踊れるようになったら楽しいですね。

地元の和太鼓保存会の演奏は生でポリビアの人たちに聞いてもらいたいです。石窯でのピザ焼き体験も楽しんでください。ポリビア料理や民芸品などの販売もしています。事前申し込みをさせていただくと、石窯ピザ1ピースのおまけつきです！(中学生以上参加費500円)山小屋広場を皆で踊れるよう整地してお待ちしています！！お申し込み・問い合わせ **Tel&Fax 059-212-0154** メール **info@difar.jp**

DIFAR ホームページからも申し込み可能です。

## 活動支援のお願い

DIFAR は会費と寄付金、助成金、物品販売の利益等で運営しています。ポリビアに日本の声が届くように、ポリビアの活動や文化、人の動きを日本に伝えるために資金が必要です。皆さまのご協力をお願いいたします。

**【寄付】 随時受付中です。切手で寄付していただくことも可能です。**

### 【会員】

**正会員 5000 円／年** (会の運営に参加できます。総会で議決権があります)

**賛助会員 3000 円／年** (会の活動を応援してくださる方)

**マンスリー会員 1000 円／月** (希望により、正会員か賛助会員かを選んで頂  
けます。会費は月々1000円からお納め頂けます)

会員の特典 会報誌「DIFAR 通信」をお届けします。会主催事業の案内をお届け  
します。会主催の講演会に無料で参加できます。

振込先 **郵便振替口座 00890-0-122793** (トク) **ディファル**

**三菱東京UFJ銀行 店番 450 普通口座 0649345 DIFAR**

**NPO 法人 DIFAR 事務局 〒515-3421 三重県津市美杉町八知 1383**

**Tel&Fax 059-212-0154** メール **info@difar.jp**

**URL <http://difar.jp/> facebook <https://www.facebook.com/difarnpo>**